

## 2022年度 第2回 豊岡市子ども・子育て会議 議事要旨

日時 2023年3月20日（月） 13時30分～15時15分  
場所 豊岡市役所 大会議室  
出席者（委員） 水落会長、岡藤副会長、咲花委員、森本委員、田中委員、曾根委員、加藤委員、戸田委員、西垣委員、永田委員、佛生委員  
（事務局） 正木次長、吉本課長、山本参事、河本参事、恵後原参事、吉谷参事、栗垣参事、佐伯課長補佐、長柄主幹、谷垣主幹、仲義主幹、中村係長、山内主任、丸谷参事、道下主幹  
欠席者（委員） 三木委員、今井委員、小山委員、原田委員

- 会議次第
- 1 開会
  - 2 会長あいさつ
  - 3 議事
    - (1) 報告
      - ア 幼稚園・保育所・認定こども園の利用状況等について 資料3-1～2
      - イ 放課後児童クラブの利用状況等について 資料4
      - ウ 豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画の進捗状況等について 資料5
      - エ 市の組織の改編について 資料6
      - オ 2023年度一般会計予算 主な子ども・子育て支援関連事業の概要について 資料7-1～3
    - (2) 協議
      - ア 第2期豊岡市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて 資料8
      - イ 2023年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業について
        - (ア) 利用定員について 資料9-1
        - (イ) 量の見込みと確保状況について 資料9-2
    - (3) 意見交換
  - 4 その他
  - 5 閉会

配布資料

<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span>	豊岡市子ども・子育て会議委員名簿
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2-1</span>	豊岡市子ども・子育て会議条例
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2-2</span>	豊岡市子ども・子育て会議傍聴要綱
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3-1</span>	幼稚園の入園状況
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3-2</span>	保育所・認定こども園の入園状況
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料4</span>	放課後児童クラブの利用状況等について
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料5</span>	豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画の進捗状況等

資料 6	2023年度豊岡市の行政組織
資料 7-1	2023年度一般会計予算 主な子ども・子育て支援関連事業の概要 教育委員会関係当初予算（案）
資料 7-2	〃 地方創生事業
資料 7-3	〃 地方創生事業以外
資料 8	第2期豊岡市子ども・子育て支援事業計画 中間年の見直し
資料 9-1	2023年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員
資料 9-2	2023年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の量の見込み と確保状況
参考資料 1	認定区分について

議事要旨

1	開会	開会の宣言（事務局）	
2	会長あいさつ	会長あいさつ	
3	議事		
	(1) 報告		
	事務局	ア 幼稚園・保育所・認定こども園の利用状況等について  (特に質問等なし。)	資料 3-1~2
	事務局	イ 放課後児童クラブの利用状況等について  (特に質問等なし。)	資料 4
	事務局	ウ 豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画の 進捗状況等について  (特に質問等なし。)	資料 5
	事務局	エ 市の組織の改編について  (特に質問等なし。)	資料 6
	事務局	オ 2023年度一般会計予算 主な子ども・子育て支援関連事業の概要について  (特に質問等なし。)	資料 7-1~3
	会長	事務局の説明に対し、何か、質問等があるか。	
	委員	24ページの英語遊び保育推進で、指導員が3名となっている。もう少し多かったと記憶している。継続だけど縮小、予算規模は同じだろうが、指導員の人数はどうなっているか。	
	会長	指導員の人数の変容について。事務局から説明を。	
	事務局	現時点では、こども育成課に常勤の英語遊び保育推進員と、非常勤の指導員の体制で実施している。来年度も人数は確定していないが3~4名の体制で実施したい。事業の内容を変えたり回数を減らしたりは考えていない。	
	事務局	対象となる幼稚園等が減っているの、少ない人数で対応できると考えての体制である。	
	会長	ほかに質問等あるか。(なし。)次に移る。	
	(2) 協議		
	事務局	ア 第2期豊岡市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて  (特に質問等なし。)	資料 8
	会長	事務局の説明に対し、何か、質問・意見があるか。資料もかなりあるので時間を取らせていただく。  改めて、質問・意見はあるか。(なし。)	
	会長	協議事項 ア 第2期豊岡市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて、原案どおりでよいか。	
	全委員	異議なし。	
	会長	異議なしとする。次に移る。	
	事務局	イ 2023年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業について	

(ア) 利用定員について

資料9-1

(イ) 量の見込みと確保状況について

資料9-2

会長 事務局の説明に対し、何か、質問等があるか。

委員 利用定員のことだが、絶対的に言えば弾力運用というのはやむを得ない事情があると思うが、個別に見ると明らかに多いところがある。少ないところは、運営に関わることなので、本園だったらすぐに利用定員の変更をかけるが、そのあたりはやむを得ないのか。ほかの園はどうか。

私立はすぐに経営に響いてくる。定員数を下げるのが苦肉の策というか、もっと子どもが来てくれるようにしろと言われるがそうもいかず、苦しんでいる。ほかの園はどうか。

会長 定員数の二極化の部分での質問だが、ほかの園で何か意見はないか。

委員 先ほどの委員の意見と同じく、私立、民間なので、受け入れ人数によって来年度の職員数を決めないといけない。来年度の各園の園児数の見込みを見ていて、多い園はすごく多い、いつも同じようにできたらと思う。

会長 ほかにあるか。

委員 個別の園の事情にはなるが、委員が言われるとおりで。同じ人数でも年齢別の内訳によって補助金や、運営費が全く違ってくる。

3歳児未満、特に0歳児が多いと、比較的安定した運営ができやすい。一方、3歳以上に偏ると、全体として苦しくなる。

この、人数と定員と予算の考え方が民間の園の立場からすると、少ないときは人を減らせばいいじゃないか、と言われるかもしれないが、豊岡市にどう言うわけではないが、全体として行政の考え方に近いのではないか。

ところが、我々は職員も含めていかに安定的な雇用を創出するかにも腐心しており、人数が減ったからと言って即、人を切るということは、非常に出来かねるというところがあって、今後の豊岡市の子ども達のことを考えると、長く勤めたベテラン、経験豊かな職員を園としては雇用していきたい。人数が多少減っても安定的な経営ができることを考えると、利用定員の増減については、特に減についてはハードルを低くしてもらえると助かる。

園児も職員も一緒の人数にもかかわらず、収入が増減するところに運営の難しさを感じている。

会長 園の定員によって、次年度の職員配置であるとか、入園する子どもの年齢によって補助金が大きく異なるという点について、事務局から何かあるか。

事務局 委員の意見はごもっともである。市としても安定的な園の運営を行っていただけのことを考えている。

どうしても子どもの人数が減ると給付費の金額が少なくなってしまう。今後、生まれる子の人数が減ることを見越すと入園する子も減るので、園の運営も厳しくなると感じている。

施設が職員を簡単に解雇できないということは、市も承知している。それに見合う支援策も含めて、今後も引き続きお話をしながら考えていきたい。

事務局 給付費の考え方は国が示したものの。こども家庭庁ができて、配置基準そのものの考え方がどうなのかという議論も出てきている。制度の変化については推移を見守りたい。

園の安定経営と、市も苦勞している人材の確保は非常に難しい問題。

公立・私立の問題ではなく、全体的な問題とも考えており、制度の流れを把握しつつ、民間園には安定して経営していただけるよう、さまざまな角度から検討していきたい。

会長 保育の質の保証や、安全安心な保育を目指すといったことを考えるうえでも全体として検討していくのが大切だと考えている。

ほかに、質問・意見はあるか。(なし)

特に異議はないでよいか。

全委員 異議なし。

会長 異議なしとする。本日予定していた協議事項は以上。

### (3) 意見交換

会長 保護者の皆様、関係機関や地域の方々などが集まっている。また、市役所の子ども・子育て支援関係部署も事務局として控えている。

せっかくの機会なので、豊岡市の子ども・子育て支援について、「現在行われている事業をこのように見直せないか?」「こんな施策を検討できないか?」など様々意見交換をしたい。

何かあるか。

委員 あり方計画があるが、幼稚園を閉園して認定こども園に移行していく話は数年前から聞いており、それを覚悟のうえ我が子を幼稚園に行かせている。

あと5年間、幼稚園があるということを計画に織り込んであるならば、幼稚園もしっかり大切にしてほしいというのが、幼稚園の保護者の思い。

こども園の魅力として、温かい給食が出たり、用事が出来たときに、急遽、延長でとお願いできたりというのは理解している。

市全体で、女性が働くことを応援している、女性の社会進出をすごく推しているの、子育てがひと段落したお母さんが前向きに働こうとするのを応援していこうという豊岡市だと思う。

例えば、幼稚園は間近に小学校が見えるということで、コロナ禍で実施できなかった年度もあるが、年に1回の学校給食の試食会がある。学期に1回とかにして、小学校にあがるとこういうのが出るんだなというのを、年に1回といわず増やすことはできないかという意見もある。

保護者のなかには、幼稚園の魅力を発信したいがどうしたらよいかという声がある。在園中の保護者は豊岡と五荘しか知り合いではないので、その意見しかわからない。幼稚園の魅力として、冊子やお便りを作ったとして、配っていただけるとか、これから幼稚園とか保育園にと考えている保護者の方に届ける機会を応援してもらえるのかを聞きたい。

会長 なかなか難しいところ。社会状況として、こども園にスポットが当たってい

るのは仕方ないことで、幼稚園があと5年ほど存続するというのを考えたときに、幼稚園への光を考えながら支援していただけたらということでしょうか。事務局、回答を。

事務局 貴重な意見。いろんな要素があって、あり方計画を考えている。女性の社会進出もあり、預かりの時間の関係で、認定こども園や保育園を利用されている方が多く、どうしても幼稚園では制限があることがネックになっていることは承知している。要件があるなかで、そこを崩すのはできない。

基本的には、幼稚園での保育活動については、独自に実施され発信されていると考えている。

幼稚園だから、保育園だから、認定こども園だからということではなく、豊岡市では、スタンダードカリキュラムを作って進めている状況。

また、ある程度の集団で保育をするというのが必要だと考えている。あまりにも人数が少ないと、集団のなかで育む必要性があるものがなかなか難しい。

豊岡幼稚園が7人、日高幼稚園が2人となると、集団での教育を考えるとかなかなか難しいと考えている。

特に、急に大きな学校に進学した場合、例えば五荘に進学した場合、来年は3クラスか4クラスだと思うが、それだけ大きな集団に入っていくことになり、どうつなげるかが大きな問題である。

日々、保育の集団のなかで過ごして、いろんな体験をしてほしいと考えている。

ご提案のように、その点を踏まえて、小学校とどう連携するのか、幼小連携を強化すべきということで小学校と調整している。

給食のこと、小学校でお兄ちゃんお姉ちゃんに遊んでもらうなど、学校や園の特徴を持ってやっていることもあると思う。スムーズな進学ができるよう取り組んでいきたい。

会長 ほかにあるか。

委員 2点尋ねたい。1点は、通園バスの安全装置の件。事件があった後も竹野でも児童を忘れたことがあった。具体的にどういう装置なのか。

装置をつければ事故がなくなるわけではない。結局マンパワーで確認するところもあると思うので、装置だけでなく、もう一步踏み込む何かがあるのかを尋ねたい。

こども医療費無料化が拡大される。小学4年生以上は負担が大きいので、今後、その部分も無料化されていくのかを尋ねたい。

会長 1点目は、送迎用バスのシステムのリスクマネジメントのこと。2点目は、4年生以上の無料化についてどうしていくのかということ。事務局、回答を。

事務局 送迎バスの関係。事件が起きて、国からマニュアルが示された。今のところは、装置ではなく、マンパワーによる人的な確認が主であるが、来年度中には、未就学施設については装置を付けなさいという義務になる。

豊岡市は国の動向を見ていたので、来年度には装置、赤外線で人が居るか居

ないかを見るタイプだとかいろいろとあるが、装置をつけて、それだけではなくマンパワーによる確認を合わせてしなさいというマニュアルに沿って、安全対策を講じることになる。

医療費の関係。市長の公約で医療費の無料化があり、段階的に拡大することになっている。まずは3歳児までとし、次は3年生までとしている。

それ以上についても拡大したいと考えている。財源のこともあるので、全体の財政状況を見ながら進めていくことになる。

基本的には社会保障のこと。各市がどうこうではなく、社会保障として国が考えることでもあり、国が無料化するなら、それに乗るだけでいい。

こども家庭庁ができて、思い切った子育て施策が出てくるのかどうかはあるが、この無料化が項目として挙がる可能性はある。

豊岡市は、財政の状況を見ながら少しずつ拡大する、国の動向を見ながら制度として進めていきたいと考えている。

会長 1点質問を。送迎バスのシステムとリスクマネジメントについて。ヒューマンエラーが影響することであり、職員の研修にまで踏み込むのか。

事務局 ご指摘のとおり。ただ装置を付ければよい、国からのマニュアルを各園に通知すればよい、ではないと考えている。

実際にどのような運用がなされているのか、聴取したり、監査で確認したりすることも必要と考えている。ヒューマンエラーを無くするための研修も必要であり、また国の動画を示すなど、いろいろなやり方がある。

装置をつけるという物理的なことだけではなく、研修をしていくなど、いろいろな視点を持って取り組んでいきたい。

事務局 装置をつける対象となる認定こども園は、公私立あわせて5つある。これらの施設に対して、去年の事故を受けて、12月末にこども育成課が施設を訪問し、状況の把握と、研修の実施について聞き取り調査を実施し、国に報告している。

園の先生にも重く受け止めていただき、研修をしていない施設では職員間の連携が取れるよう研修を行ってもらおうこと、あわせて、兵庫県が研修の動画を作って先週配信したので、それを園に連絡し、たしか23日までだったと思うが受講して国に報告することになっているので、近々ではその研修を受けてもらっている。

日々、状況は変わってくるので、アップデートを行っていただきながら、現場の先生には事故が起こらないように対応するよう、こども育成課からもお願いしている。

会長 送迎バスのシステムとかりスクマネジメントだけではなく、ニュースになってバスで亡くなった事件があったが、公園で子どもを置き去りにして保育園に戻ってきたケースもある。新たなリスクマネジメントを豊岡市としても考えないといけないと思いながら聞いた。

ほかにあるか。

放課後児童クラブを利用する割合が非常に多くなる一方だが、支援員の人数

配置や研修について教えてほしい。

事務局 豊岡市では、支援員と支援補助員、支援員を補助するアルバイト的な補助員、の3種類で、放課後児童クラブの職員を構成している。クラブの受け入れ人数に応じて基準を設けて、30人までなら2人体制など、職員を配置しようとしているが、職員がなかなか集まらず人員不足が課題だと考えている。

研修については、いま支援員と言ったが、本来、国の基準である県の放課後支援員認定研修を修了した者とは少し異なり、資格を持っているのは、支援員と支援補助員。補助員は資格を持っている者、持っていない者がいる。そのような状況なので、できるだけ県の研修を受けるよう進めている。

ほかの研修では、いま、いろいろに対応していかないといけないお子さんが増えている。また、いろいろな場面、救急的な対応も含めて、来年度以降、研修を充実していきたいと考えている。

会長 ほかにあるか。

委員 20ページのジェンダーギャップ解消推進について、予算が拡大されている。校則だとか、制服についても女子はスカート、男子はズボンではなく、自由に選べるようにゆくゆくはやっていきたいと生徒も含めて協議をしている。

このようなことについては、小さい頃からの教育や、周りの理解も含めて、子どもたちも私たちも理解していかないといけないことだと思う。

具体的に予算が拡大したことについて、何か新たに対策を取ることがあれば教えてほしい。また、今後、子どもたちにどのような性マイノリティについての教育を考えているのか教えてほしい。

会長 質問は2点。事務局から回答を。

事務局 現在、総務部のジェンダーギャップ対策室で、この課題について取り組んでいる。ジェンダーギャップの解消推進と大括りしているが、かなり細かく事業展開をしている。

個別の相談会や、ハローワークに来てもらって相談を受けるなど、いろいろなことが含まれている。

なぜ豊岡市でこの課題に取り組むことになったかという、高校を卒業して豊岡から出て行った女性が帰ってくる割合が25%、4人に1人しかいない。ここが大きな課題。

それにより、出生率も低下するというよくない連鎖が出来ていた。その状況下で女性に選ばれる、ジェンダーギャップを解消すべきということで政策が進んでいる前提がある。

これをすれば解決するような特効薬は無い。いろいろあると思うが、極端にみならず受け入れやすいところからひとつずつこういうものだと理解してもらうことが必要。年齢層に合わせた対策が必要。

今年度の事業のなかで園関係、例えば小さな子に対しては、あまりそういう認識はないと思うが、植え付けないように、そういう絵本を配った。小学生なりの考え方も出てくる、性を考える年頃になってくると考え方が変わり、中学

校、高校でも変わる。年齢層に合わせてどうすべきか考える必要がある。

委員ご指摘のとおり、学校の規則を生徒会も一緒に変えていこうという流れがあって、制服も議論されていると聴いている。

会長 ジェンダーギャップも、ジェンダーレスも、ジェンダーフリーも、いろいろと言葉があつて、その定義をしっかりと押さえて教育をしていかないと、多様性を認めるということだけが強調されると、違う方向に進んでいってしまうので、そのあたりも踏まえて教育現場では実施しないといけない。

ほかにあるか。

委員 1点目は、妊婦健診助成額の増額の8,000円の根拠を教えてください。

2点目は、こども未来部は、どこかの課が部に昇格したと思うが、昇格した意図・目的。具体的に業務として何か変わる、従来の課の仕事を表に出して重要視するという事なのか教えてください。

会長 質問が2点。1点目は妊婦健診助成額増額の根拠。2点目はこども未来部のこと。業務内容についてはさきほど説明があつたのでそれ以外で補足も含めて何かあれば、事務局回答を。

事務局 妊婦健診の関係は、この場に健康増進課が居ないのではっきりしたことは言えないが、おそらく基本的な考え方として、初回の健診ということで実態に合わせるとこれぐらいの金額が必要であると判断して増額したものと考えている。

こども未来部の関係は、まず、子育て関連を強化したいという市長の思いがある。国もこども家庭庁を創設した。内閣府、厚生労働省、文部科学省の3つの省庁が関わっている子ども施策をまとめた。手続きや届け出がややこしく、国も実情がわかっていて、こども家庭庁にまとめてきた。市も、子どもを柱にしていろいろな施策を打ちたいということで、新たにこども未来部を創設した。

そのなかで、基本的には、今まで教育委員会が持っていた事業、健康増進課が持っていた事業、社会福祉課が持っていた事業を、分割・仕分けをしてこども未来部に子どものことを集中してやろうという組織。

こども未来課には、こども育成課から、未就学児童の園関係以外の部分が行く。子育てセンター、ファミリーサポートセンターなど、園に通っていない子が対象のサービスがこども未来部に行く。健康増進課の親子関連事業と一緒に。妊娠する前からいろいろな関わりができて、妊娠期、出産期、その後、年齢に応じた全体的な大きな流れを作ろうという考え方。それに対応していろいろなサービスがくっついてくる。その軸を考えるのがこども未来部。園の部分は教育委員会が提供するという区分け。全体の流れは、こども未来部で所掌するという考えである。

会長 ほかにあるか。

少子化に伴う縮小化だけではなく、豊岡市独自の地域性を生かした子育て支援事業や、こんなことがあったらよいと思う意見でも。

豊岡市は、広域にわたる地域特性を持っているため、互いの繋がりを強める意味でも地域ネット型の接続クラウドなども、構築していければと思う。豊岡市全体をよくするために、いろいろな意見があると思う。

委員 不登校支援をしている。幼児期における生きづらさ、環境に適応しにくい子が居て、家庭のなかで困った状況があり、この子をみてもらえるところがなかなか無いという親の話を聞くことが多い。

例えば、放課後児童クラブにしても、この子が入ると集団が乱れたり、この子をしっかりとみる人が居ないと扱いにくい子になってしまう。親も遠慮して児童クラブに入れにくい、孤立してしまう、そういうものを無料で自由に受け入れる組織があればと思う。

幼児期のみならず小学校に入った子もそう。児童クラブに入るとトラブルを起こすから受け入れてもらえないとか。もっとたくさん目で見ないといけない状況だが、配置する職員が少ないと特別な支援を要する子どもに余力が行き届かないので、そういうところを充実するものがないものかと思う。

中学校でも不登校が増えていて、こども支援センターという窓口があるが、そこにも行きづらい、その環境にも適応しづらい、そうするとずっと家にいないといけない。

大丈夫だよと言ってもらえる、そういうところがないかなと常に考えている。意見である。

会長 確かに居場所づくりは大事。ただ受け入れるためにも、子どもの特性などを理解できる職員や、その配置、環境が必要になってくる。したがって、人的環境、物的環境、その両方をどう整えるかが課題。

そういった傾向を示す子どもが増えていくことを踏まえ、今後豊岡市でも取り組む必要があると思う。事務局どうか。

事務局 課題感としては持っている。支援を必要とする子どもをどうするか。健診の際にスクリーニングをして療育的なものが必要かどうか判断し、こども支援センターが発達訪問をしている。

それ以外にも、園でどう支援するのがいいのかを職員にアドバイスをしている。年々、そのような子が増えている状況がある。専門的な知識も必要なので、マンパワーが必要だと認識している。

放課後児童クラブの件。集団生活に居られるかどうかを入所の基準としている。その子がほかの子に危害を加えるとか、極端に言うと、部屋から飛び出してしまって職員では対応できない状況ならば、お断りする場合がある。

1対1、または2対1以上で見ないといけないという課題もあり、ハローワークで募集をかけているが、なかなか手を挙げてもらえてないのが現状。

なにかほかにもいい手がないか、処遇がどうなのか、いろいろと検討している。

豊岡市では、支援を要する子については、放課後デイサービスを紹介して、そこに通ってもらおうのがその子にとって一番いいと考えており、いかに早くつなぐのか腐心しながらしている。そのあたりも含めてご理解いただきたい。

会長	<p>他者間をつなぐということを考えた際、互いに繋がるのが困難であったり、直接的な繋がりを拒んだりする人も中には居ることを改善する上で、ICT機器等を使いながら、例えば子育て支援事業の相談業務を検討しないといけな いのかなと思いつながりながら聞いていた。</p> <p>ほかにあるか。</p>
委員	<p>あり方計画や小学校の統合で、施設が空くが増えると思う。次の利用に 関する市の計画があるか。</p>
会長	<p>施設の今後の運営。事務局から回答を。</p>
委員	<p>あり方計画上、廃止した施設を次に使うのは幼稚園。新田と神美の幼稚園は トイレを改修して、放課後児童クラブの専用施設とする。</p> <p>学校やその他の施設は、基本的な市の考え方として、庁内で使用する用途が あるのか照会して、なければ外向けに運用したいというところがあるかどうか 募集する。民間にお願いしても手があがらなければ、しばらく市が保有してい くことになる。利活用も並行して考えていく必要がある。</p> <p>こども育成課の管轄では、幼稚園舎は児童クラブに改修したい。日高も閉園 するので、日高の放課後児童クラブの専用施設に改修したい。</p>
会長	<p>ほかにあるか。</p> <p>ないようなので、意見交換を終わりたい。</p>
4 その他	<p>事務局 今年度の開催はこれで終了。感謝申し上げます。</p> <p>来年度の開催については、改めて連絡する。</p> <p>2024年度中に、第3期子ども・子育て支援事業計画を策定する必要があ り、2023年度はアンケートによるニーズ調査を予定している。会議の開催回 数が増えることが予想されるので、委員のみなさんにはさらなるご協力をお 願いしたい。</p> <p>会長 その他に委員や事務局から何かあるか。</p> <p>(特になし)</p> <p>これを持って本日の会議を終了させていただく。</p>
5 閉会	副会長あいさつ